

### 令和7年 第3回 川崎市議会定例会 9月議会ご報告

9月1日から10月10日まで、川崎市議会定例会が開催され、例年同様、前年度の決算を審査、それらの議案を含む議案63件、報告5件が、各決算審査特別分科会と各常任委員会での議論を経て、全て可決成立しました。  
自民党代表質問では、令和6年度一般会計決算について、「川崎市総合計画」第3期実施計画・令和6年度事務事業評価結果について、令和6年度川崎市プレミアムデジタル商品券事業について、「フッ化物洗口」を小・中学校に導入することについてなど、37項目と多岐に渡る取組や課題を取り上げています。

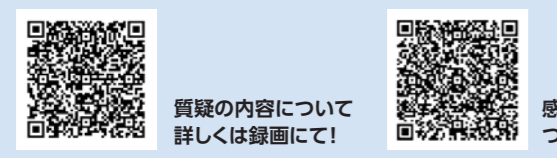
### 令和7年 第4回 川崎市議会定例会 12月議会ご報告

11月26日から12月22日まで、川崎市議会定例会が開催されました。自民党代表質問では、「今後の市政運営」「市長選挙公約である高等専門学校設置」「国で検討が進む小学校給食費の無償化への対応」「特別支援学校整備に向けた課題」など36項目について質しました。上程された議案については、「物価高騰対応子育て応援手当(2万円給付)」の補正予算を含め、各常任委員会での議論を経て、議案47件、報告1件が可決成立しました。  
引き続き、市議会最大会派としての責務を全うし、市民の負託に応えられるよう努めてまいります。

### 令和7年 決算審査特別委員会 総務分科会 (9月18日) 野田雅之の質疑

#### 防災の取組について質問しました

- 自主防災組織活動補助金及び自主防災組織防災資器材購入補助金について
- 令和6年能登半島地震における職員派遣について
- 感震ブレーカーの取組について ほか



#### 〈用語説明〉

- 自主防災組織活動補助金  
自主防災組織が行う消火や救命等の訓練、啓発に使用する資料作成や講演会等への助成金
- 自主防災組織防災資器材購入補助金  
自主防災組織が配備する消火用具や救出・救助器具などへの助成金

### 令和8年度 予算編成に対する要望を実施

令和7年11月、自民党川崎市議会議員団として、令和8年度の予算編成要望を市長に行いました。  
我々は令和5年の市議会議員選挙において公約を掲げ、任期中その実現に向けた取組を推進しています。今回の要望では、我々の公約実現に繋がる施策や、策定時にはなかった新たな課題などを予算要望に落とし込み、その対応や解決に向けた予算編成を要望しており、「特別市実現に向けた取組強化」「ふるさと納税額拡充に向けた返礼品の充実」、「災害避難所にもなる学校体育館等への空調設備設置」、「幼稚園・保育所・小中学校等へのフッ化物洗口の導入」、「臨海部大規模土地利用転換事業の推進」など45項目です。人口155万人を突破した本市のまちづくりが、市民にとって誇りの持てるものとなるよう、これからもより一層尽力してまいります。



団長として市長へ予算要望 右：矢沢副団長(宮前区)

#### 野田まさゆき PROFILE

- 昭和44年生まれ
- 平成3年 日本大学理工学部卒業
- 平成3年～平成20年 東急建設株式会社勤務
- 平成20年 衆議院議員秘書(公設秘書含む)
- 平成27年 川崎市議会議員初当選(現在3期目)

自由民主党川崎市議会議員団控室  
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1  
TEL:044-200-3357 FAX:044-245-4132

- 主な市議会での経歴  
総務委員会委員長、議会運営委員会委員長  
大都市税財政制度調査特別委員会委員長  
決算審査特別委員会委員長、まちづくり委員会副委員長 など

川崎市議会議員  
野田まさゆき 政務活動事務所  
〒212-0058 川崎市幸区鹿島田1-9-16 2F  
TEL:044-271-7788 FAX:044-271-5566

公式サイト

# 川崎市政 NEWS 2026年3月発行

## MOVE! KAWASAKI!!

# 野田まさゆき

MASAYUKI NODA

川崎市議会議員(幸区選出)

### 自民党市議団団長として市長へ『小児医療費助成制度の拡充』を要望

令和8年9月より施行! 子育て世代の負担感を軽減!  
助成対象を高校生年代まで拡大! 一部負担金も廃止します!

令和7年8月、自民党市議団の団長として、自治体格差が深刻化していた小児医療費助成制度の拡充を求める市長要望を行いました。  
市長(川崎市)は、近隣他都市との均衡を考慮し、制度拡充方針を示しました。

- 現在、中学3年生までとしている助成対象年齢を高校生年代まで拡大
- 小学4年生以上に設けていた通院1回あたり500円の一部負担金を廃止



有言実行!  
皆様に示した公約  
実現に信念を貫く!

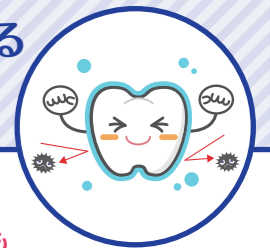
“未来ある子どもたちに  
将来の健康を届けたい!”

### 健康格差の縮小や生涯を通じたむし歯予防に必要と国が認める「フッ化物洗口」を小・中学校に導入することについて

#### 導入に大きく動き出したフッ化物洗口!

自宅では続かない! だから学校で行う意義がある!!  
平成29年度から「児童・生徒に対する学校等でのフッ化物洗口の導入」を継続して求めてきました。この間、公約にも明記し、8年間で30回を超える自民党代表質問、自身の質問

を作成、市へ導入を求めてきました。  
令和4年には、健康格差の是正にも寄与する取組として、厚生労働省が、フッ化物洗口の高い効果と安全性を保証し、学校、保育所、幼稚園に対して、公式に推奨する通知を通過しています。  
本市では市歯科医師会と連携し、平成15年から一部の保育所でフッ化物洗口を実施してきた経緯もあり、施策の継続性も含め、小学校での実施を強く求めてきました。



令和7年 第4回 定例会 野田雅之の一般質問 (12月19日)

01 フッ化物洗口について

川崎市にも存在する健康格差を指摘

令和5年度の市内のとある小学校  
未措置歯数が16本、19本の児童が存在するのが現実です!

議場で示した  
質問スライドより



川崎市歯科医師会の先生からの見解

X区・D校の児童(前歯はむし歯になりにくい)  
標準1年生 乳歯16本 永久歯8本 計24本  
**未処置16本の児童**  
乳歯は大半がむし歯 永久歯は4本程度むし歯  
標準4年生 乳歯10本 永久歯12本  
4本はどちらか 計26本  
**未処置19本の児童**  
乳歯は全滅 永久歯にも大きな影響

川崎市歯科医師会の先生からの見解

X区・D校の児童(前歯はむし歯になりにくい)  
**未処置16本の児童**  
**未処置19本の児童**  
十分な食事が摂れていない可能性・大  
「ひどい」 近年見たことがない  
「むし歯の洪水」(昭和40年代)と同じ



一度むし歯になった歯は  
自然治癒しない!!

歯の溝の細菌は、歯ブラシ  
での除去が困難  
フッ化物洗口液はその溝  
にもしっかり届きます!



フッ化物洗口とは

一定濃度のフッ化ナトリウム水で「ブクブクうがい」をするだけの安全・簡単な予  
防法です。特に4歳～14歳までの永久歯の生え変わり期間の実施が最も効果的と  
されます。歯を丈夫にする、初期のむし歯の進行を抑える、むし歯菌の活動を抑制  
するなどの効果があります。むし歯がない子どもでも成人になって起こりうるむし歯のリスクを減少させます。  
日本の市販歯磨き粉は殆どがフッ素配合で、フッ化物は、野菜、肉、海産物、果物、お茶等にも含まれています。



質問 フッ化物洗口の  
有効性は?

答弁 健康福祉局長(要約)  
フッ化物洗口などの  
長期継続的な応用は、  
歯質の強化、う蝕発生  
の減少効果が科学的  
に認められ、学齢期に  
おける「う蝕予防」の  
有効手段である。

質問 今後の導入への見解は?  
(市内に存在する健康格差を示し)

答弁 市長より導入に向け大きく踏み出す一歩(要約)  
現況の数値を踏まえ、もはや看過できない状況である  
と理解している。  
フッ化物洗口を用いた予防と習慣づけをする効果的な手法  
について、教員の負担も考慮しながら、教育委員会が主体的に考え、子ども  
たちの歯の健康について取り組んでもらいたいと考えております。  
私としては、まず重点的に取り組むべき学校の中から複数のパターンで試行  
的に実施することにより、もっとも効果的・効率的な手法を見出し、横展開  
を図るよう教育委員会と協議、調整して取組を進めてまいります。



12月一般質問  
詳しくは録画にて!

今後も 市内全校での実施に向けて 強く要望して参ります!!

02 保育事業について

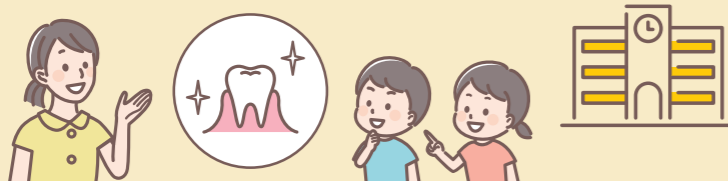
令和7年6月の質問に続き、川崎市立の保育所に比べ圧倒的  
に多い民間保育所の処遇改善を要望。民間の保育士確保は  
厳しさが続き、近隣の東京都や横浜市との賃金差により他市に流出してしまう保育士対策と  
して、人件費などの財政支援の必要性を訴えました。引き続き、保育環境の充実に努めて参ります。



厚生労働省報告

小児期のフッ化物洗口は  
大人になった後も一定の効果を持つ

国内では1970年の新潟県弥彦村での実施以降、  
平成30年度には、全国で1万4千を超える施設、  
150万人を超える児童・生徒が  
集団フッ化物洗口を行っています。  
自宅での実施は継続しにくく、学校等での  
集団実施が提唱されています。



弥彦村フッ化物洗口50年大人のむし歯調査結果

出典 厚生労働省 報告書  
口腔保健に関する予防強化推進モデル事業(自治体におけるフッ化物応用によるう蝕予防対策の長期的な影響等の検証)に係る調査等一  
報告書作成は日本口腔衛生学会

結論 小児期のフッ化物洗口が大人になった後も一定の効果を持ち続けている

未処置のむし歯 + むし歯が原因で抜けた歯 + 治療済みのむし歯

= むし歯を経験した歯の本数を比較・分析しました。

1970年 全国に先駆けて弥彦村の小・  
中学校でフッ化物洗口を開始。

A 弥彦村で育った  
調査時 47～55歳の方は  
小学校+中学校在学時に  
9年間フッ化物洗口を経験

むし歯を経験した歯の本数  
A 11.17本 B 13.74本

1978年 洗口効果が確認され、幼児の  
保育園でのフッ化物洗口も開始。

A 弥彦村で育った  
調査時 36～46歳の方は  
保育園+小学校+中学校在学時に  
11年間フッ化物洗口を経験

むし歯を経験した歯の本数  
A 6.8本 B 10.42本

1988年 さらに効果を求め  
シーラント処置を開始

A 弥彦村で育った  
調査時 30～35歳の方は  
保育園+小学校+中学校在学時に  
11年間フッ化物洗口を経験

むし歯を経験した歯の本数  
A 3.35本 B 8.9本

シーラントとは 奥歯の溝が深く  
むし歯になりやすい歯を見つけた場合  
に、むし歯になるのを予防する方法

シーラント管理  
実際には約1/4の児童が  
シーラント処置を受けた。

2000年

現在  
新潟県の子どもの  
むし歯数が全  
国最少になり現  
在(2021年)ま  
で21年間連続  
更新中。

Aは弥彦村で育ち小児期にフッ化物洗口を経験した人々 Bは村外で育ち小児期にフッ化物洗口を経験しなかった人々